

# ドーム型民間から否定続出

## 事業者「ニーズ見込めない」

浜松市中央区の篠原地区で県が建設を計画する県営球場を巡る調査で、浜松市が求める多目的ドーム型への否定的な意見が民間事業者から相次いでいたことが分かった。県が1日に公表した基本計画の素案で明らかになった。球場を含む公園の供用開始が2032年度以降の見込みであることも初めて示した。(鈴木弘人)

### 浜松新球場

## 供用開始 32年度以降

調査は県が21、23年度、民間事業者を対象に実施。プロ野球の球団や建設会社など41社を対象とした23年度の調査では、プロモーターから「音楽興行のニーズはほとんど見込めない」「芝生広場での野外フェスは周辺環境への配慮から難しい」と球場以外の利用に否定的な意見が出た。採算面では、利用料のみで建設費の回収は難しいとする建設会社からの指摘もあった。プロ野球の試合開催について意見を出した球団は、

ホーム球場の方が利益が大きく地方開催は減少傾向にあるとした。また、球場周辺の交通渋滞が選手の移動に影響が出ることを懸念した。一方、プロ野球のキャンプ、ラグビーのホーム試合、格闘技やサーカスなどのイベント利用の可能性はあるとする前向きな意見もあった。費用面では、多目的ドーム型は可動式のスタンドや各種スポーツに対応した天井高が必要で建設費が割高

になる可能性が指摘された。県が22年度に算出した多目的ドーム型の概算事業費は370億円だが、資材の価格高騰や建築業界の人手不足で着工時にはさらに膨れ上がる見込みだ。県は素案で、6月に予定

している基本計画の成案の

	ドーム型	屋外型1	屋外型2
収容人数	2万2000人	2万2000人	1万3000人
概算事業費	370億円	100億円	70億円
想定する年間利用者	12万7000人	6万7000人	6万7000人
想定する経済波及効果(年間)	21億4000万円	2億8000万円	2億8000万円
照明	あり	なし	なし
防風防雨効果	あり	なし	なし

県営新球場の3候補

策定後、国への事業認可を得てから用地を取得し、同時並行でPFI(民間資金を活用した社会資本整備)の事業者選定に約3年を見込む。公園の設計と施工に約5年かかるとし、最短でも8年後の供用開始となる。

県は、野球場の規模と構造を1万3千人収容の屋外型(概算事業費70億円)、2万2千人の屋外型(同100億円)、多目的ドーム型の3案に絞っている。成案では3案に優劣を付けず、策定後に1案に絞り込む。